

豆知識

森は海の恋人

 畠山 重篤さんのお話を聞きに行きま
 

気仙沼で牡蠣を養殖をする漁師さんなのですが、畠山さんは海と森が川を通してつながっていることから、漁場を守るには森から守らなければダメということで、「森は海の恋人」運動を展開。山に植林したり、子供たちに体験教室を通して、森と海の関係性を教えたりと、様々な活動をしています。「カキというもの世界どこどこであっても川の河口でないと育たないんだ。つまり、山の養分を川が運んでくれてそれでカキが育つ。そんなことは漁師であれば誰でもわかることで、昔は「魚付き保安林」というものがあって、河口近くの森を切ると魚が寄りつかないというふうにいわれてた。でも、川のもっとずっと奥の森には気がついてなかったんだ。日本には約2万本以上の川があって日本海側と太平洋側に流れ込んでいるんだけど、本来の日本人は川が作ってくれた堆積平野で米をつくって、海で魚を捕って暮らしていたから、川に対してタテの関係で生きてきた。川を河口から眺めることで日本が「汽水がにおう洲（クニ）」であることを再認識して欲しいとおっしゃっていました。

森で育まれた栄養分（植物プランクトン）は川を流れて、河口に流れ込む。豊かな海は森が作っている。私たちがふんだんに使って流している水のこと一度見直して欲しいとおっしゃっていました。シャンプーの量を半分に、食器を洗う時に洗剤を減らして・・・生分解性の高いものを使う。森のことだけでなく私たちの生活も海のことを考えて過ごさなければと改めて思いました。

しかし、私たちの身近な川の上流は気仙沼とはまた違い人工林が放置されている状態です。森想人はその人工林の杉や桧などを伐って森を整備し、なおかつそれを私たちが建築やものづくりに利用することによって林業が成り立つような活動をしています。森を守ること、それは、植樹をすること、伐採して森を整備すること、両方の努力が必要なのです。

畠山重篤さんの主な著書

- 「漁師さんの森づくり～森は海の恋人」（講談社）
- 「森は海の恋人」（北斗出版）
- 「リアスの海辺から」（文藝春秋）

住宅の素材のお話

木のこと

木は針葉樹と広葉樹があります。それぞれ使い道があります。

針葉をつける樹木。裸子植物


 （マツ科）カラマツ
Larix leptolepis

秋になると紅葉し、冬には葉を落とす日本特産の落葉針葉樹です。長野県や北海道などで多く植林されています。高さはふつう20～30mとなり秋の紅葉や春の新葉の季節は特に見事です。かつて日本の電信柱のために植林されたそうです。

一戸建て完成見学会開催しました。

12月13、14日に完成見学会を開催しました。水源の木ををたっぷり使ったこちよい空間になりました。中でも圧巻なのが大黒柱と螺旋階段です。20センチもの厚みの階段が12段積み上がっているのです。そのほかにも左官壁、紙クロス、和紙なども使っています。施主様のご好意で今後もここでワークショップなど開催の予定ですので是非見に来て



イベント情報

森森（水源のめぐみ）フェスタ

 日時：3月14日（土）10:00～16:00
 場所：神奈川県民センター2Fホール

森想人がドールハウスづくりなどワークショップをします。詳しくはブログを見てください



気になる木 大募集

あなたの身近な「気になる木」をメールで紹介ください（写メールでもOK）詳しくはブログ見てください



キャラクターの名前募集中

あけましておめでとうございます。本年もよろしくお願い申し上げます。新年早々、神奈川県の水源地の森の道志や山梨の林業のかたの森に行ってきました。森の様子や林業について、木材の状況などの調査なのですが、山にはたくさんのお木が皆さんを待っているようでした。冬の森はきびしい寒さでしたが、しんとした空気が心地よかったです。今年はどなたのもとにこの水源の木が行くのでしょうか

森想人 代表 鈴木直子・小口もとこ・櫻井理恵子・鈴木智香子（50音順）

 ヘッドオフィス 住工房 なお（株）
 TEL 0467-73-7033
 FAX 0467-73-7032
 〒248-0016
 鎌倉市長谷5-5-14

e-mail : moriomoibito@yahoo.co.jp